

地域ケア推進会議 報告書

【医療・介護連携に関する場合のみ】

提出日	2022年5月31日
作成 高齢者支援センター	町田1
作成者	齋藤美和子

1.開催日時	2022年 5月23日	月	19:00	～	20:30
2.会場	オンライン				
3.主催センター	町田1 ・ 町田2 ・ 町田3				
4.参加人数	22名・傍聴1名				
5.参加者内訳	<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者支援センター 8人		<input checked="" type="checkbox"/> 医療と介護の連携支援センター 1人		
	<input checked="" type="checkbox"/> 医療関係者 7人 (うち、医師 1人)		<input type="checkbox"/> 介護事業者 3人		
	<input type="checkbox"/> 民生委員 人		<input type="checkbox"/> 老人会 人		<input type="checkbox"/> 住民 人
	<input type="checkbox"/> 町内会自治会 人		<input type="checkbox"/> 警察 人		<input checked="" type="checkbox"/> 行政 3人
	<input type="checkbox"/> その他 ()				
6.開催テーマ	今取り組むべきフレイル予防について考える				
7.地域課題	(1) 課題設定の背景				
	<p>新型コロナウイルス感染症の長期流行に起因する外出自粛とその長期化、また、感染症への心配・不安による地域活動の縮小等により、フレイル進行が懸念される。社会活動が回復しつつある今、フレイル予防の啓発を強化する必要がある</p> <p>(2) 検討した地域課題</p> <p>2020年2月～新型コロナウイルス感染症流行に伴い、引きこもりがちな生活・社会活動の縮小・地域交流の場の消失し、高齢者のフレイル進行が懸念される状況が続いている。コロナ感染以前からあった課題だが、感染流行を経てより、その重要性が高まっている。感染対策を行いつつ、高齢者自らがフレイル予防に取り組める地域作りが必要である。</p>				
8.会議の内容	<p>①2月25日開催『MCI/初期認知症の方の早期発見・早期介入について考える』の振り返りを行う。108名の参加、心配な高齢者を発見した時の連携について多職種で有益な意見交換が行われた。専門職への制度の周知と連携意識の高揚を図ること、市民に対して認知症の正しい知識の普及啓発を図ることが継続課題である</p> <p>②今取り組むべきフレイル予防について フレイルリスクがある高齢者のスクリーニング・自らの状態に気づく機会が必要、そしてフレイル予防の取り組みの必要性を理解し、その方に必要な取り組みに繋がるという流れが必要。今あるものをうまく使っていくことも一考したい。高齢者に関わる専門職が、フレイルの正しい知識を身につけ、伝える・働きかけることが必要ではないか</p>				
9.課題に対する対応策・今後の地域での展開	<p>今回は各職種の視点からの意見聴取とし、以下の取り組みについて今後検討を行う</p> <p>①フレイル予防の対象者抽出・フレイルの知識を伝える・フレイル予防に取り組む段階で活用できそうな既存ツールを把握する。チェックリストやフローチャート・リーフレット・スマホアプリなどが想定される。フローの中で各職種がどのように関わられるかも検討する。</p> <p>②町トレ・口腔トレ等現状ある資源の活用状況を確認し、更に周知活用を進める。</p> <p>③専門職がフレイル予防に関する正しい知識を得る機会をつくる</p> <p>④高齢者の生活上で、日常的に繋がる場所でフレイルについてチェックできる仕組みの構築を検討する。</p>				